

公式LINEで毎号配信

登録キャンペーン

エントリーで5千円相当  
が当たる!!

(エントリーフォームは不定期配信)



# 全厚労ニュース

全厚連 国労連 労働組合連合会

〒110- 東京都台東区入谷

0013 1-9-5

TEL 03-3874-3591

FAX 03-3874-3593

発行日 毎月20日

https://www.zenkouro.org/

26春闘討論集会

診療報酬プラス改定を受け

## 未来につなぐ医療・介護へ

意気高くごしをあげる参加者たち



26春闘は、物価高騰や他産業との賃金格差拡大を背景に、生活改善ができる水準のベースアップを掲げる必要があります。春闘アンケートでは、生活実感での不足額は4・7万円を超えています。

医療・介護業界が将来にわたって選ばれる職業であり続けるためには、他産業に見劣りしない賃金体系の構築が急務であることや、全国の病院の約7割が赤字という状況下で、急激な物価上昇や人件費高騰に対応するためには、診療報酬のさらなる引き上げが不可欠です。

診療報酬は6月改定となるため、春闘は長期化が予想されます。全組織が一致団結してこの春闘に臨みましょう。

以下の2点を柱とする統一要求書を提出するよう呼びかけました。

1. ベースアップを含む大幅賃上げの実施、働き方など処遇改善による医療・介護の質向上。
2. 地域医療を守るための信頼できる労使関係の構築。

提出期限は2月27日とし、全厚労と各道県委員長の連名で提出します。

回答指定日は3月11日に設定したうえで、翌3月12日を統一行動日とし、全国で何らかの行動を起こすことを提起。行動内容は各組織に任せていますが、職場集会、街頭宣伝、SNSでの発信などが例として挙げられます。

診療報酬プラス改定を生かし  
確実な賃上げにつなげよう

1月23・24日、姫路キャスルグランヴィリオにて全厚労26春闘討論集会を開催し(参加者115名、内全厚労役員27名、中央委員37名、傍聴者51名、オンライン参加者含む)春闘を闘い抜くべく春闘方針を賛成多数で確認しました。

秋からの取り組みを総括

25秋闘では10月から12月にかけて、41年ぶりとなる全国キャラバンを実施。県庁や市町村会への要請行動を通じて、診療報酬引き上げの必要性について共有しました。

全国キャラバンは、各都道府県や市町村、行政担当者に直接働きかけ、医療・介護の危機的状況を可視化する重要な役割を果たしました。

住民との対話や署名活動を通じて、「医療は地域のインフラ」という共通認識を広げ、各地での共同体制を強化する契機となりました。

物価高騰、賃金格差、人材流出、病床削減圧力といった課題を共有し、診療・介護報酬の引き上げと臨時改定の必要性について、自治体と共同で国に迫る足場を築きました。

2日目 職種別グループ討論



真剣に耳を傾ける参加者たち

2日目は職種別に分かれグループ討論をおこない、日頃の業務の悩みや組合活動の課題など話し合いました。(以下抜粋)

●(全体) 病床削減の原因として、人員不足や患者数の減少が挙げられるが、現場では高齢化により業務負担は減っていない。回転率だけでなく、患者に寄り添った医療の提供も評価してほしい。

●(全体) 医療職を目指す若者が減っており、特に厚生連の病院が選択されにくい状況がある。病院を選択してもらえないような活動が求められる。

●(看護師) 看護師不足は深刻で、病床再編等で人員を確保しているものの、絶対的な不足は拡大している。ICT/DXの導入により業務時間を短縮し、職員満足度を向上させる提案がされた。

●(リハビリ) 低賃金問題の解決のため、ベースアップ獲得が不可欠であるとの意見で一致。SNSだけでなく、対面でのコミュニケーションの重要性も再確認された。

●(PT) 資格取得へのインセンティブ不足、病院ごとの単位数ノルマの差、サービス残業の常態化といった課題が共有された。

●(診療放射線技師) 若手職員が抱える問題を相談しやすいよう、横のつながりを作る必要がある。賃金については、職種別手当ではなく医療職全体のベースアップを求めることで意見がまとまった。

●(介護福祉士) 処遇改善が行われた後も他産業との賃金格差が依然として大きいことが指摘され、待遇改善、特に賃金の大幅な引き上げがなければ、人材不足は解消されないとの意見が出された。

●(事務職) ベースアップに関する情報共有が行われた。特に、長野県では長らくベースアップがなかったが、他県では3年連続で実施されている例もあり、衝撃を受けたとの声があった。

●(相談業務他) 厚生医療を守りたいという思いはあるものの、低賃金や働き方改革の中で人材確保が困難になっている現状が共有された。他支部の具体的な改善活動が参考になったとの意見が出された。

●(臨床検査技師) 診療報酬制度上、検査を増やすほど赤字になる構造的な問題や、パート職員の待遇の低さが指摘された。タスクシフトがあまり進んでいない現状も課題として挙げられている。

●(全体) 診療報酬改定により、急性期拠点病院が集約化され、結果的に病院数が減り、人員削減につながるのではないかと懸念が示された。生き残りのためには、病院の専門特化や、労働組合として自治体への補助金要請活動の必要性も確認された。

### 学習講演

日本文化厚生農業協同組合連合会  
東公敏代表理事理事長

医療は住民のものであるというスローガンに最もふさわしいのが厚生連であり、労働組合も、住民や農協と連携して安心の地域医療を共に創り上げていく活動に展望を見出すべきだと語られました。戦前から続く「患者と医療者が一体となって医療を創る」という厚生連の理念に立ち返り、全国の仲間、そして地域の農協と共に課題に立ち向かうよう呼びかけ、講演を締めくくられました。



講演する東理事長

厚生連情報教育事業システム  
「厚生連オンラインカレッジ」医療福祉における  
「協同組合アイデンティティ」

講座25分です。ぜひご視聴を!

### 「診療報酬改定と厚生連医療の展望」



# 全ての組織でベースアップ獲得の決意 西日本ブロックでメディカルウェーブ実施

## 西日本 ブロック

一致団結して  
ベア・ベア・ベア!!

全厚労西日本ブロックは、2月7～8日、TKPガーデンシティPREMIUM広島駅北口にて、春闘討論集会を開催。鹿児島、U M参加を含め、81名が結集し、26春闘への関心と意気込みの高さを感じました。

初日は大栗陽全厚労書記長が41年ぶりの全国キャラバンを総括報告し、特に西日本での県庁要請行動等の詳細を語りました。次に岡

野学書記次長が1月に開催した全厚労春闘討論集会について、26春闘方針を説明。ベースアップでの賃上げと全厚労統一要求書の取り組みをやり遂げようと訴えました。

全体会の最後はメディカルウェーブ（街頭宣伝行動）。西日本ブロック代表の松田純一（副執行委員長）が、行動提起を行い、広島駅北口に移動しました。この日は日本海側一帯で大雪

予報となるなど、全国的な寒波で、風も強く厳しい寒さでしたが、30分間の宣伝行動をやり切りました。寒さで人通りも少なかったですが、それでも各県から現場の状況を訴えるリレート

ークを元気によく行い、20班のチームで70筆の署名を集めました。

翌日はグループ討論。25秋闘の振り返りと、各職場の課題から26春闘要求を議論しました。

## 三北 ブロック 各道県しつかりと 地域医療を守る

### 春闘に取り組もう

全厚労三北ブロックは2月6日、福島県・郡山市民プラザで「26年春闘討論集会」を24名の参加で開催。春闘方針や要求づくり、26年度診療報酬改定の対応について活発な意見交換を行いました。

### 団体交渉に 向けて参考に

各道県から26春闘の取り



今シーズンで最も寒いと言われる中、メディカルウェーブを終えて



## ドクター山本晴義の 心の相談室（17）

### 後悔という感情の対処法

先日、大学生の患者さんが2社内定をもらいました。どちらも行きたい会社で悩んだ揚げ句、断腸の思いでA社を辞退したものの、辞退した直後に「人生を間違えたかもしれない」と激しい後悔に襲われ、数カ月経った今もその状況が続いています。

人は、毎日、「どちらを選ぶか」という小さな決断を繰り返しています。昼食に何を食べるか、転職するかなど大小さまざまですが、どれも共通するのは後悔したくないという感情です。後悔とは、もし別の選択を

すいようです。失敗などの現実の痛みは時間とともに消えていきますが、もし行動していただければ、後悔は度々頭の中で再生されやすいため、後悔が残るでしょう。

さて、前述の学生が、この先どうなるかは誰にもわかりません。今の後悔は、その選択（B社を選んだ）を肯定できる材料がまだそろっていないから起きているのでしょう。「間違えたかもしれない人生」を生きているのではなく、「まだ結果が出ていない人生」を生きているだけです。「他人と過去は変えられないが、自分と未来は変えることができる」というメッセージをぜひこの学生に送りたいと思います。



山本晴義先生



病院統廃合問題等を報告する新潟・和田委員長（右）

### 病院統廃合への 対応も

三北ブロックでは、地域医療構想に伴う病院の統廃合が今後さらに進むと予想されることから、「地域医療と組合員を守るために何ができるのか」という問題提起もありました。具体的な解決策は今後の検討課題となりましたが、全厚労中央執行委員会でも課題を共有し、対応する必要性を確認しました。最後に各道県が春闘にしっかりと取り組むことを改めて確認し、活発な春闘集会を終えました。

### 25補正予算対応と 26診療報酬改定

続いて25年度補正予算に基づき「医療・介護等支援



頑張る仲間

各県

この人

各県・現場で運動に、趣味に、仕事に頑張る人々を紹介するコーナーです。  
第213回は熊谷・香川にお願いしました。



熊谷 茂木拓未さん

熊谷総合病院に勤務して4年目になる理学療法士です。現在は循環器チームに所属し、心疾患を抱える患者さん一人ひとりに寄り添ったりハビリテーションに取り組んでいます。まだ目立った資格はありませんが、日々の臨床を大切にしながら勉学に励み、知識と技術の向上を目指しています。

組合活動については学ぶ途中ではありますが、仲間とともに理解を深め、少しずつ関わりを広げていきたいと考えています。

香川県滝宮総合病院で介護士として勤務している久保勇樹です。今期より副執行委員長をさせていただいています。日々、患者さん一人ひとりに寄り添い、安心して療養生活を送っていただけるよう心がけて業務に取り組んでいます。

趣味の釣りやキャンプ、バイクなどのアウトドアを楽しみながら、昨年子どもが生まれ家族が増えたことを励みに、「責任を持ちしっかり働く」気持ちを大事しています。

四役としてまだまだ未熟ですが少しでも仲間の力になれるよう一層頑張っていきたいと考えています。どうぞよろしくお願いいたします。



香川 久保勇樹さん

読者の声

6月に非正規職員も組合に入ることができる規約を変更しました。徐々に非正規の方が加入してくれ、今まで分からなかった当事者の切実な声を把握できるようになってきました。この声を経営陣や国に届けていきたいです！  
——今まで声を出せなかった人たちが仲間になることは大きな力です。医療業界全体で取り組みたいものです。  
(H T)  
全国キャラバンの活動が静岡

テレビで取り上げられた事は多くの人に活動を知ってもらえる機会になったと思う。各新聞社や地元テレビなどで取り上げられるほど更に勢いをつけ、現状を全国に訴え続ける活動の継続が必要だと思つ。  
——全国キャラバンの取り組みはとても良かったと思います。賃上げに向けてみんなで協力して頑張つて訴えましょう！  
(K U)  
賃上げはほとんどしないのに物価高で生活が苦しく、大変です。地域の医療はろうそくの火が消える寸前なのではないでしょうか。  
(秋田)

そのろうそくの火を絶やさぬように逆に火を大きくするのが労働組合の役割だと思います。共に頑張りたい。  
(A K)  
心の相談室を読んで、わざといつもより遠い店に行く…は難しいですが、スーパーでいつもより遠い駐車場に停める事ぐらいはできそうです。自分へのご褒美を楽しみに、この冬は頑張ります。  
(富山)  
私も運動不足解消に夜のさんぽを心掛けています。サボってしまう時もあります。が、少しでも体を動かすと気分が良いですね。(E N)

地震の備えも医労連共済

能登半島地震発生から2年が経過し、いまだ復興には程遠い現地の実態が報道されています。

医労連共済だけでなく民間保険でも、火災の基本契約だけでは地震被害への支払いはありません。被害が火災によるものでも、その発生原因が地震の場合は火災の基本契約だけでは対象外となります。万が一に備えて火災共済には地震特約をつけることをお勧めします。

地震特約の掛金は、火災共済の基本契約掛金と同額になります。例えば、木造40坪の建物で満口加入の場合、基本契約の月掛金は1千4百円で、地震特約も1千4百円となります。全国どこでも掛金は同額です。地震に関わる保障は通常の火災と違って、全壊の場合で1口3万円・建物と家財あわせて9百万円が限度額になります。



労働組合用語集

要求書：組合員の要望する内容をまとめて書きつづった文書。春闘等で経営者に提出する。

回答期限日：労働組合が要求書を提出し、この日までに回答を行うよう求めた日。(回答指定日ともいいます)

教宣部のつぶやき

診療報酬アップが基本方針として決まったが、たった数パーセント。消費税についても依然として患者へ転換できない仕組みのまま。食料品などここ数年で何割と値上げになつているにもかかわらず。現状維持が大変なのに、国は今回の方針で病院収益が回復し職員の賃金アップにつながるでも思っているのか。(O G)

まちかど珍画報  
カクイシ ジュンスケ



暴走する馬車馬か

今月はキーワードクイズ

【問題】全厚労・西日本ブロックが広島駅前で集めました。安心・安全の医療・介護の実現のため夜勤規制と大幅増員を求める国会請願〇〇。

答え『しよ□□』

紙面をヒントに答え(4文字)を、右QRコードまたは下記あて先へお送りください。



当選者(読者の声掲載者含む)15名様に図書(クオ)カードを差し上げます。答えと本紙の感想などを添えて下記あて先へお送りください。  
当選の結果は発送をもって代えさせていただきます。11月号のクイズ答えは「ビノヨウジン」で、当選倍率は4倍(クイズ答え、読者の声計15名当選)でした。



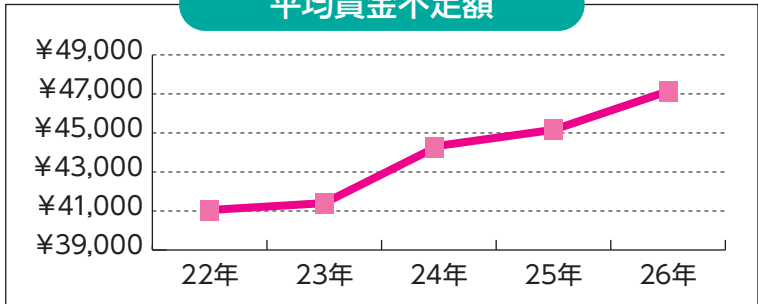
# 組合員の声が最大の要求!!

全厚労26春闘アンケート中間集約 (1/16時点10,760名)

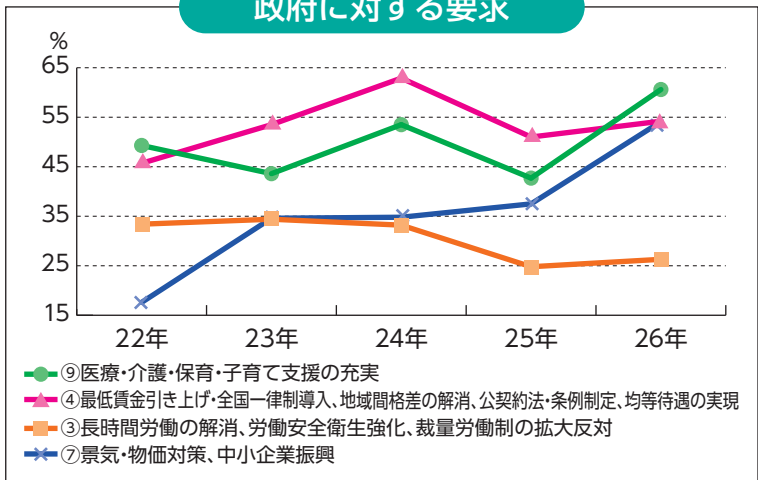
生活実感からの月の賃金不足額は平均

47,136円

平均賃金不足額



政府に対する要求



| 設問4 (%)                                      | 22年  | 23年  | 24年  | 25年  | 26年  |
|--|------|------|------|------|------|
| ⑨医療・介護・保育・子育て支援の充実                           | 49.3 | 43.6 | 53.5 | 42.7 | 60.6 |
| ④最低賃金引き上げ・全国一律制導入、地域間格差の解消、公契約法・条例制定、均等待遇の実現 | 45.7 | 53.5 | 62.9 | 51.0 | 54.2 |
| ③長時間労働の解消、労働安全衛生強化、裁量労働制の拡大反対                | 33.4 | 34.4 | 33.2 | 24.8 | 26.3 |
| ⑦景気・物価対策、中小企業振興                              | 17.6 | 34.6 | 34.8 | 37.5 | 54.1 |

15%以上の賃上げが必要

「2026春闘・働くみんなの要求アンケート」通称「春闘アンケート」の中間集約(1/16時点10,760回収)を掲載します。春闘要求最大の根拠である「組合員の声」から現場実態をつかみ、物価高に負けない大幅賃上げを勝ち取りましょう。

組合員は大幅な賃上げを望んでいます。26春闘アンケートの「今の職場で特に不満に感じる点」で最も票を集めたのが昨年同様「賃金が安い」という項目でした。職員の賃金引き上げは、モチベーションアップはもちろん、職員の定着や離職防止、新入職員獲得につながります。

生活実感の項目では、「かなり苦しい」と「やや苦しい」の合計値は前年度より

2・9ポイント、5年間で約12・8%も上昇しています。食費、光熱費・ガソリン代など、物価高が家計を直撃しています。

生活実感から月の賃金不足額の項目(左図)では、昨年4万5千円を超えましたが、今年はずいに4万7千円以上不足しているとの結果となっています。

26春闘の賃上げ要求額も3万5千円を超えていますので、全厚労平均で賃金の1%は約3,000円と考えれば、11%以上の賃上げを組合員は望んでいることになり、不足額では、15%以上の賃上げが無ければ、

人員不足と過重労働の改善まったなし

生活が苦しいままと読み取ることができません。

働時間の短縮や改善となるよう、組合からの啓発や学習の取り組みを推進しましょう。不払い労働は1分でも「賃金未払い」となり法違反です。しかし2人に1人が「不払いがある」と回答しています。これは使用者側に責任がありますが、組合として働いた時間外は必ず請求するよう呼びかけ、会側へコンプライアンスのため自主的な調査や請求しやすい仕組みづくりを要求しましょう。

病院への強力な景気・物価対策を!!

政府に対する要求で、最も重視したいものを13の選択肢から3つまで選ぶ項目(左図)では、今年も回答項目が大きく変更されま

## 全厚連との懇談でベア求める

した。23年には「最低賃金引上げなど」の項目が最多となっていました。今年も「医療・介護などの充実」が最多、次いで「最低賃金引上げなど」となりました。

また23年から「景気・物価対策」が3番目に多い回答となっていますが、今年は昨年より16・6ポイント上昇し、大きな政治的要求となっています。昨年厚労

省は病院の7割が赤字と公表し大きく報道されました。医療収益の増加はみられるものの、物価の上昇で費用の上昇の方が大きいことが原因であり、医療・介護労働者の賃上げを困難にする大きな要因となっています。地域医療を担う病院への「景気・物価対策」は急務であり、国会や関係省庁への要請行動を強めるこ

とが重要です。

26春闘の最重要課題は「ベースアップでの賃上げ獲得」です。組合員の生活を守るため、情勢やストライキ配置の学習を進めると共に、「組合員の声」である春闘アンケートを活用し、要求に確信を持ち交渉に臨みましょう。全国の厚生連労組が団結して26春闘頑張ります。



統一要求について説明する大栗書記長

厚労省の考えが厚生連にとって

2月6日、東京都千代田区大手町JABビルにて全国厚生農業協同組合連合会(以下..全厚連)との懇談を行いました。全厚連からは四役5名、全厚連からは管理部・滝沢洋二部長、管理部総務グループ・二宮健太氏に出席頂きました。

と、全厚労統一要求書への回答を全国の厚生連に促すことを要請しました。

25年度補正予算の医療・介護等支援パッケージの申請状況や26年度診療報酬改定について聞くと、補正予算については、「取り漏れの無いように情報共有や各県の事例を共有している」として、診療報酬については全厚連も要請してきた成果として、「現段階では配点が不明なことや、手術件数と配置基準の関係、重症度と看護必要度がどうなるかなど見極める。新たな地域医療構想で人口10万人毎に拠点病院を集約するという厚生連の考えが



左・全厚労四役、右奥から滝沢氏・二宮氏

良いか悪いか見極めて要望を出していく必要がある」との考えを示しました。

今回の懇談では他にも、ICT導入の課題や、DPCやDMATについてなど様々な意見交換を行うことができました。また、26診療報酬についてはお互いの立場で要請を行ってきた成果ということ、それでもまだ不十分な点があることについては、共通の認識であることが分かりました。